

を文集に残していました。ナンバーワン美術ゼミやデザイン専攻での経験から美術関係の大学やアート関連の専門学校、アートに特化した福祉施設に進み、その後関連の仕事に就く生徒もいました。病気等で必要な単位のとれなかった生徒には専攻科という道もあります。これは一年間で短大卒と同等という資格が取れるそうです。

高3生は学校生活が終了すると美術に接することも少なくなると思います。卒業間近の授業では自分のテーマで、キャンパスに水彩、アクリル、マーカー、鉛筆、またはマスキングテープで描いたりする自由画を作成します。生徒一人ひとりにとってどんな課題がふさわしいのか、油絵やアクリル画、水彩画、鉛筆画か、もっと身近な工作的なものか、高校生ならもっと高みを望むべきなのか目の前の生徒とともに今後も探っていきたいと思います。年度によって構成する生徒も違うので、個々の要求を表情から読み取って課題を柔軟に変化させていくことが美術だからこそ可能だと思います。自分の表現や思いが作品になり納得する作品ができたと思えるなら、ゼミを通じてアートに触れる気持ちを持てたのではないかと思います。

